

..... 編集後記

◆ 5月号の特集：GPR(地中レーダ)に予定していながら、ページ数の都合で入りきらなかった2編を本号に回させていただき、特集：GPR[2]としました。本号のGPR特集は、活断層調査への利用というキーワードで統一してあります。後回しにしてしまった著者の皆さん、1冊にできずに申し訳ございませんでした。

◆ 宇部空港から下関へ行く道すがら、バスの車窓からみえる家々の屋根瓦が、てかてかと黒びかりをしていることに違和感を覚えたことがありました。須藤さんの「瓦の話」によりますと、これはどうも陶器瓦(釉薬瓦)だった様です。私が生まれそだった群馬の田舎では、こういった光った瓦を見た記憶がなかったものですから、次から次と現れる黒びかりした瓦屋根の家々を、成り金趣味なのかと思いつつ眺めていました。陶器瓦といふし瓦の県別生産量のグラフを見ますと、島根県が陶器瓦の生産量のうち23.7%を占めていることが目を引きました。趣味の問題ではなく、地場産業の生産物を使っているということなのですね。

◆ 別子銅山夢物語を拝読して、文化は人という思いを強くしました。行政と住民とが協力しあって新しい町づくりをしている様子がいきいきと語られています。多くの先人たちと、具体的なお名前は出てこないものの、夢中になってこの町づくりを推進された何人もの人々がおられることが想像できます。

別子銅山があったからシンボルを作りやすかったということはあるかも知れません。しかし、“小さな地方都市だから小回りがきいてまとまりやすかった”という具合に片付ける訳にはいかないでしょう。新居浜市は愛媛県内では松山市に次ぐ人口13万余の町です。我がつくば市は人口15万4千余人、似たような規模です。かたや300年の歴史、こちらつくば市は誕生後12年。つくば市の町づくりはこれからです。

◆ 本号では、韓国資源研究所の金さん・高さんによる韓国の工業原料鉱物資源の紹介記事、中央大学杉並高等学校地学部の紹介、濱崎さん・須藤さんによる天草陶石鉱床の紹介等々、ここで触れたい記事が沢山ありますが、誌面の都合で残念ながら詳しくご紹介できませんでした。中でも、杉並高等学校地学部の紹介はほかの高校地学部の方のみならず、広く一般の方々には是非目を通していただきたい記事です。

◆ 梅雨入りしたと言われながらも雨は降らず、ところによってはすでに真夏のような気温になっていましたが、6月も下旬に入りようやく雨の降り続く日々となりました。雨の日が好きかきらいか、文字通り好きずきですが、通勤のバスを待ちながら、雨の夜、ぬれた舗装道路に映るテールランプの長くあかい尾は、私にとっては何かか「街の灯」と感じられ、闇の彼方への想いがつります。山家の出ゆえかもしれません。
(湯浅真人)

地質ニュース編集委員会

委員長：湯浅真人

副委員長：石井武政

委員：星住英夫・飯笹幸吉・七山 太・佐々木宗建
佐藤興平・大熊茂雄・石塚 治・木下泰正・
中野 司・遠藤祐二

事務局：総務部業務課広報係(河村幸男・吉田朋弘)

〒305-8567 茨城県つくば市東1-1-3

地質調査所 地質ニュース編集委員会

事務局 Tel. 0298-54-3520

Fax. 0298-54-3504

地質ニュースに関するご意見は編集委員会へ

地質ニュース	第538号	1999年	6月号
	1999年6月1日	発行	
編集	工業技術院地質調査所		
発行人	株式会社 実業公報社		
	代表者 林 光生		
発行所	株式会社 実業公報社		
	東京都千代田区九段北1の7の8 〒102-0073		
	Tel. (03) 3265-0951(代表)		
	Fax. (03) 3265-0952		
	振替口座 00110-6-32466		
	麹町局私書箱第21号		
印刷	株式会社 エアフォルク		

© 1999 Geological Survey of Japan

●本誌は東京都の霞ヶ関政府刊行物サービスセンターおよびつくば市の友朋堂書店本店に常備してあります。また、最寄りの書店でも注文できます。